

## 1. はじめに

インドネシア共和国、通称インドネシアは、東南アジア諸国連合（ASEAN）の本部がインドネシアの首都ジャカルタにあり、ASEAN 盟主と世界から考えられており、人口が世界第4位で、2億7000万人を超える規模である。インドネシアにとって日本は、輸出入ともに最大の貿易国の一つとなっており、相互に重要な国となっている。2023年8月に私は、研究調査にて、インドネシアのジャカルタとジョグジャカルタを訪問した。福岡大学は、2010年から工学部を中心に、いくつかのインドネシアの大学と部門間協定（学部と学部の協定）や大学間協定を締結している。幾つかの共同研究を行い、国際ジャーナルに研究論文を掲載し、学生の短期相互訪問などの国際交流を行っている。それらの交流により、強い信頼関係が構築されている。2023年3月には、インドネシアの首都ジャカルタにある州立イスラム大学ジャカルタ校（STATE ISLAMIC UNIVERSITY SYARIF HIDAYATULLAH JAKARTA ; UIN）の理工学部（FACULTY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY）の講師であるフェリ・ファリアント（Feri Fahrianto）氏が、本学工学研究科、情報・制御システム工学専攻（主査：大橋正良教授）博士課程後期を修了し、博士号を授与されている。私も、古くからの友人が大勢いる。今回のインドネシア訪問に際して、事前に友人に連絡しておいたところ、州立イスラム大学ジャカルタ校のアセップ・サエプディン・ジャハール（Asep Saepudin Jahar）学長から、大学近くのホテルで会いたいとの要請があり、学長の昼食会に参加した。UINジャカルタ校と福岡大学の交流は、極めてよい結果をもたらしているのも、今後も交流を発展させてほしいとの依頼があった。このように福岡大学は、海外の他大学と良好な関係を構築しているが、キャンパス内のグローバル化は、十分進んでいないのが現状である。

「学校法人福岡大学第一期中長期計画（令和2年～6年度）に掲げられた目標「多様な人が集うダイバーシティキャンパスの実現」に向け、福岡大学は、諸事業に取り組んでいる。キャンパス内において日本人学生と外国人留学生が多様な価値観に触れ、お互いに理解を深めながら共に育つ機会を福岡大学が提供し、グローバルな人材を求める社会からの要請に応えるために、福岡大学は、学部留学生割合に関する目標値を2029年度までに2%、2034年度までに4%としている。そして、その数値目標達成のために、学部留学生選抜入試の改革（令和7年度から新選抜（前期日程））などを計画している。「多様な人が集うダイバーシティキャンパスの実現」には、海外の学生が、福岡大学の魅力を知ることが重要である。その際、福岡大学がいままで培ってきた海外からの評価・関係性が重要となる。そこで、ここでは、福岡大学が、海外の他大学と良好な関係を構築している一例として、2010年の初回訪問から2023年までの交流について述べることで、インドネシアの大学との関係構築とその後の持続的な活動を国際交流の観点から解説する。

---

\*福岡大学工学部教授（前国際センター長）

## 2. 交流の始まり

インドネシアとの本格的な交流のきっかけは、2009年文部科学省の「教育研究高度化のための支援事業に福岡大学の「ワンキャンパス集積型総合大学の教育研究高度化支援プロジェクト」が採用されたことである。この予算の一部を利用して、2010年11月にインドネシア・ジャカルタ市内の国立研究所における物づくり技術の現地調査を行う機会があり、同地域にある州立イスラム大学ジャカルタ校理工学部の調査を2010年11月4,5日に行った。11月4日は、州立イスラム大学ジャカルタ校の医学・衛生科学部の設立6周年記念式典であったため、その式典に私も参列した。日本側からは、塩尻孝二郎；在インドネシア共和国特命全権大使、小原基文（JICA Indonesia Office Chief Representative）氏らが参列していた。席がとなりであったので、州立イスラム大学ジャカルタ校について尋ねたところ、信頼できる大学であり、日本政府からもJICAなどを通じて多額の寄付が行われていることがわかった。州立イスラム大学ジャカルタ校の医学・衛生科学部に対しては、ビル建設・設備設置などに約29.83億円の支援があったそうである。（国立イスラム大学ジャカルタ校開発プロジェクト；Universitas Islam Syarif Hidayatullah Jakarta；UINDP-JICA LOAN No. 530参照。）

また、11月4日の午後に訪問したインドネシア・ジャカルタ市内の国立研究所における聞き取り調査においても、いずれの研究者も州立イスラム大学ジャカルタ校が信頼できる大学であり、イスラム教過激派などの入り込む余地がないことを証言していた。

## 3. イスラム大学ジャカルタ校の歴史

州立イスラム大学ジャカルタ校（STATE ISLAMIC UNIVERSITY SYARIF HIDAYATULLAH JAKARTA；UIN；Universitas Islam Negeri Syarif Hidayatullah or UINSH）は、1957年にジャカルタの郊外南西部のチプタット地域（Ciputat District）にインドネシア宗教省によってイスラム教教育者養成のための大学として設立された。1998年にイスラム教教育者養成プログラムとその他の心理学部、経済学部、理工学部の学生のためのプログラムが確立された。2002年にイスラム大学ジャカルタ校（STATE ISLAMIC UNIVERSITY SYARIF HIDAYATULLAH JAKARTA；UIN）となった。州立イスラム大学ジャカルタ校では、2004年に、医学・健康科学部が設立された。現在、イスラム大学ジャカルタ校には、教育学部、心理学部、宗教学部、経済学部、イスラム法律学部、政治学部、コミュニケーション学部、道徳学部、理工学部、医学・衛生科学部など10学部があり、約23,000人の学生が通っている。インドネシアは、生活レベルが向上しており、多くの私立大学がある。イスラム大学ジャカルタ校以外にジャカルタには、国立インドネシア大学とジャカルタ国立大学がある。州立イスラム大学の医学部以外の学費は他の国立大と比較しても低く、半期の学費は、300～500万ルピア（100ルピアがおよそ1円）であり、他の私立大学の学費（600～800万ルピア）と比較して、安価である。そのため、学生学力は比較的高い。

#### 4. 州立イスラム大学ジャカルタ校理工学部教員との打合せと講演

2010年11月4日午後より、写真1に示すような理工学部教員との打合せと講演会（福岡大学・工学部の三島と国立イスラム大学ジャカルタ校の理工学部副部長・教務担当のアグス・サリム氏が各大学・学部についてパワーポイントデータを用いて講演）が開催された。このアグス・サリム先生とは、その後も十数年にわたって交流が続き、他のインドネシアの大学の副学長となられた折も、福岡大学の客員教授として、福岡大学との交流に尽力された。

打合せは、部門間協定を締結するためには時間がかかるが、双方が努力すること、共同研究の可能性を探索すること、学生、教員の留学の可能性を探索することなどが話し合われた。



写真1. 理工学部教員との打合せと講演会（福岡大学・工学部の三島と州立イスラム大学ジャカルタ校の理工学部副部長・教務担当のアグス・サリム氏が各大学・学部についてパワーポイントデータを用いて講演）の様子。

#### 研究講演会

2010年11月5日午前、写真2,3に示すように、理工学部教員と学生を対象として、研究講演会（福岡大学・工学部の三島が、最近の研究テーマとワンキャンパスプロジェクトの成果についてパワーポイントデータを用いて発表した。）が開催された。

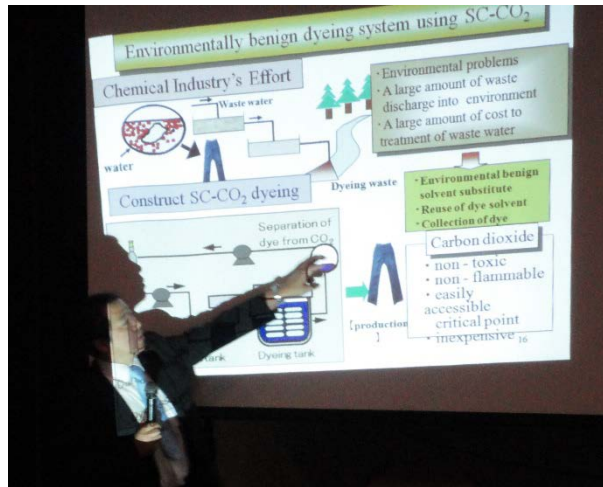


写真 2 . 5 日 午 前 の 講 演 会



写真 3 . 講 演 会 の 様 子

この時の会議で、具体的な国際交流の基本方針（毎年、相互に数人の学生が適当な時期に訪問することやコストの負担方法。）と、共同研究の具体的な目標値（5年以内に国際ジャーナルへの投稿）などが話し合われたことが、その後、10年以上続く交流に繋がったと考えられる。

#### 5. 協定の締結とインターネットを活用した交流の継続

インドネシア共和国の首都ジャカルタにある州立イスラム大学ジャカルタ校（STATE ISLAMIC UNIVERSITY SYARIF HIDAYATULLAH JAKARTA ; UIN）の理工学部（FACULTY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY）と福岡大学工学部との間で、2011年4月に部門間協定が締結している。

交流・講義・講演としては、以下のようなものがある。

1) 2010年11月4,5日に工学部の三島健司が、国立イスラム大学ジャカルタ校理工学部にて、講義「日本における化学工学」（60分、2回）を行った。

2) 2011年1月13日午後3時~4時に11号館工学部B会議室にて、州立イスラム大学ジャカルタ校理工学部訪問団と福岡大学工学部国際交流検討ワーキング・グループによる交流会議が行われた。自己紹介の後、次のようなことが話し合われた。

3) 2011年1月13日10時~12時 インドネシア共和国の州立イスラム大学ジャカルタ校の情報処理施設と福岡大学総合情報処理センター施設とのインターネット接続によるインターネット講義・会議

4) 2011年1月10日~16日の期間に、ジャカルタ校 (STATE ISLAMIC UNIVERSITY SYARIF HIDAYATULLAH JAKARTA ; UIN; Universitas Islam Negeri Syarif Hidayatullah or UINSH) より、理工学部 (FACULTY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY) の学部長 ソフィアンシャハ・ジャヤ・プトラ教授 (DR. Syopiansyah Jaya Putra, M.Sis ; 工博) を代表とする理工学部訪問団4名の教員・研究者が、福岡大学工学部との交流を深めるために、福岡大学を訪問した。2011年1月13日午後3時~4時に11号館工学部B会議室にて、国立イスラム大学ジャカルタ校理工学部訪問団と福岡大学工学部国際交流検討ワーキング・グループによる交流会議が行われた。

5) 2011年9月2日~12日にインドネシア共和国の州立イスラム大 (昨年、三島が先方を訪問し、大学の学部間協定を締結した。) の学生9名と教員3名が福岡大を訪問した。講演会・講義・ビジネスプランコンテスト見学、インターネット会議・工場見学・高校見学を実施した。

6) 2011年9月3日 iPad アプリの作成に関する講義 10時~11時福岡大学工学部6号館640教室にて。ジャカルタ校の学生9名、博多高校12名が参加した。

7) 2011年10月21日~23日にインドネシア共和国のジャカルタ校の理工学部を福岡大学工学部三島健司が再度、訪問し、22日、23日に、講演・講義を行った。講義題目「環境に優しい化学工学技術の実用化」

このような交流が、2019年のCOVID19流行前まで続いた。その後、コロナ禍のため、具体的な人の移動を伴う交流は、2020年~2022年ごろには行われなかったが、インターネット用いた会議は、2011年から現在も継続している。さらに、コロナ禍からの回復にともない、2023年には、人の移動を伴う国際交流も2019年以前と同様に復活している。

## 6. 国際交流の恩恵

これらの国際交流のおかげで、福岡大学内におけるイスラム教徒に対する対応が大幅にグローバル化した。イスラム教徒は、一般に極めて敬虔な信者が多く、信仰心が強い。イスラム教徒ではない我々から見ると、「厳しい戒律」でも、それを守った生活をしている。食事や、お祈りなどについても、宗教上の決まりを守っている。「ハラール」という言葉があり、ハラールとは、イスラム法によって「許されたもの」を意味し、行って良い事や食べる事が許されている食材や料理を指す。「禁止されるものまたは行為」はハラームである。現在の世界は、種々の人種、宗教信者がともに活動する社会、組織、企業が急速に拡大してお

り、各組織のグローバル化と多様化が望まれている。日本の大学にも、多様性の教育が望まれており、多様な文化への理解が必要不可欠となっている。20年前であれば、ほとんどの福岡大学の関係者が、「ハラール」という言葉やイスラム教徒の生活習慣を知らなかったと思われる。ジャカルタ校との交流だけが原因ではないが、現在では、ハラール食に対する対応や、イスラム教徒がお祈りをする部屋への配慮など、多くの配慮がなされるようになり、福岡大学に通う学生に対しても、国内に居ながら、グローバル化を経験する機会も増えつつある。

私の所属する工学部・化学システム工学科では、ここ十年の間に、国際学会に参加する学生数が飛躍的に増大した。さらに、国際学会でも、それらの学生の中から、学生賞などを受賞する者も増え、大手有名企業に就職する学生数も増えた。大学院への進学者数も増えつつある。昨年は、4割の学生が大学院へ進学している。卒業生や保護者の方々から感謝の言葉をいただく機会も増えたように感じている。

#### 7. 今後の「多様な人が集うダイバーシティキャンパスの実現」

少子高齢化が進む現在の日本の大学においては、質の高い受験生を数多く確保することは、きわめて重要な課題となると思われる。受験生やその保護者の方々の立場で考えると、グローバル人材教育を行う福岡大学は、きわめて魅力的な大学で、大手有名企業に就職する学生数や会社経営を行う先輩卒業生の数も、その魅力を増幅すると思われる。海外からの留学生数が増えることは、これらに直結するので、そのために入試改革などについては、今後とも、多くの方に継続的に検討いただきたいと考える。

さらに、海外からの留学生が、彼らのことをよく理解できる日本人が多く福岡大学に存在するためにも、海外渡航経験のある福岡大学の学生数を増やす予算措置や学内生徒の語学力向上の種々の施策が、今後とも重要であると思われる。